

# 1980年代のICU視聴覚教育研究室

## The Department of Educational Technology and Communication in the 1980s

鈴木 庸子 SUZUKI, Yoko

● 国際基督教大学日本語教育課程  
ICU Japanese Language Program

1980年代の半ば頃にICU視聴覚教育研究室に学生として在籍していた。この研究室は本館の西のウイング、154号室にある。扉をあけると共同の小部屋があり、そこから五つの小部屋に通じている。五つの小部屋は南向きの大きな窓に面して明るく、春先には窓の下にたんぽぽが、5月には生け垣のバラが、秋には銀杏の紅葉が見事だった。

研究室ではよくお茶やコーヒーを入れていた。夕方になって一緒に食堂へ夕食をとりに行くときは、いつも石本先生も御一緒だった。ときどき、元気をつけようと近くのファミリーレストランや大衆食堂などにも出かけた。5、6名の学生が必ずいただろうか。夕食がすむと、研究室には勉学の灯がともる。そして数時間後、みんなで研究室を出て、本館の鍵をかける。9時なら早いほう、みんなですべて、先生のご家族に申し訳ないと思っていた。

1980年代に、コンピュータはまだ高価だったが、この部屋で学生たちは思う存分コンピュータに接することができた。私たちはコンピュータを利用した学習教材を作り、プログラム学習を学んだ。論文がここで形づくられ、プリンターに打ち出された。コンピュータは大変な勢いで進化した。研究室のコンピュータは粗末に扱われることはなかった。コンピュータの数が増えてスペースが足りなくなると、石本先生が日曜大工で新しい台を作られた。

「学生の身近にいてこそ」というのが石本先生の教育哲学でいらっしゃるようにお見受けしていたが、先生は、何も口に出しておっしゃることはない。教育の哲学も真理との向き合い方も、先生の存在を通して学び、気がつけば先生の生き方に近づきたいと、心のどこかで感じている。私たちはそんな世代であったように思われる。

この文章を書き終わった日に、石本先生御逝去の報を受け取った。私たちをこれほど驚かせて、石本先生のあのいたずらっ子のようなおちゃめな笑顔が目浮かぶ。教え子たちからこんなメッセージが届くはずだったのに、もう天国で受け取っていただくしかない。先生、どうぞこれからも私たちを見守っていらしてください。先生のおかげで今日を歩んでいる私たちは先生に心から感謝を申し上げるとともに、御冥福をお祈り申し上げます。

「先生、所属の大学でCAI開発のグループに入りました。」「もう一度、先生のところで勉強したいと考えているのですが。」「先生の作られたプログラムをCD-ROMに焼いて配布するつもりです。」「事前事後テストについて、アドバイスをしていただけませんか。」「遠隔教育用のWebSiteを作って公開しています。」「お誕生日に花束をお送りします……」